

**製品名:** モエシン/エズリン/ラディキシンウサギポリクローナル抗体

**カタログ番号:** APRab14022

研究使用のみ

## 概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	67kDa

## 抗原情報

遺伝子名	MSN
別名	MSN; Moesin; Membrane-organizing extension spike protein; RDX; Radixin; EZR; VIL2; Ezrin; Cytovillin; Villin-2; p81
遺伝子 ID	4478/5962
SwissProt ID	P26038/P35241/P15311
免疫原	抗血清はヒトモエシン/エズリン/ラディキシン由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 524-573

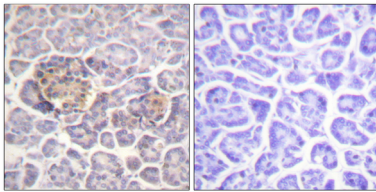
## 背景

モエシン（膜組織化伸展スパイクタンパク質）は、エズリンやラディキシンを含む ERM ファミリーのメンバーです。ERM タンパク質は、細胞膜とアクチンを基盤とする細胞骨格との間の架橋剤として機能していると考えられています。モエシンは、細胞間認識やシグナル伝達、そして細胞運動に重要な糸状仮足やその他の膜状突起に局在しています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],機能: 主要な細胞骨格構造と細胞膜の結合に関与していると考えられる。 ,PTM: Thr-558 のリン酸化は、微絨毛様構造の形成に重要である。 ,類似性: 1つの FERM ドメインを含む。 ,細胞内局在: リン酸化型は、頂端膜の微絨毛様構造に多く存在する。 ,サブユニット: 休止期 T 細胞において、TCR 活性化時に分解される PAG1-SLC9A3R1-MSN 複合体の一部である（類似性による）。 SLC9A3R1 に結合する。 ,組織特異性: 研究対象とした全ての組織および培養細胞において。 ,

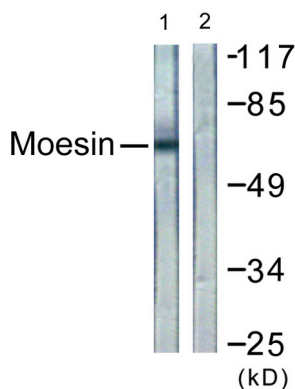
## 研究分野

白血球の内皮透過移動;アクチンと細胞骨格を調節します。

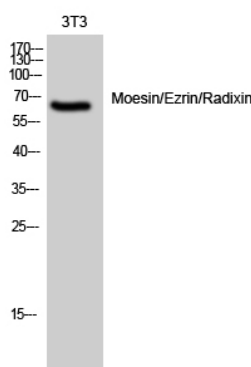
## 画像データ



Moesin/Ezrin/Radixin 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト臍臓組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



NIH/3T3 細胞ライセートの Moesin/Ezrin/Radixin 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 2000 希釈の Moesin/Ezrin/Radixin ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析